目覚め

じく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
目覚め

【Ｎコード】
Ｎ９３３７Ｚ

【作者名】
じく

【あらすじ】
起きるのを待っていた男の子と目が覚めた女の子のお話。

「おはよう」

そう言って私の髪を撫でる人懐っこい笑顔が目の前にある。
私達はベッドの上、一枚のタオルケットに包まれていた。

「おはよ、大ちゃん」
「あれ、昨日は”大輔”って呼んでくれたのに」

ねぇ、昨日みたいに呼んでよ
なんて言って一層眩しくなる笑顔を見ないように起き上がる。
床には二人の衣服がぐちゃりと脱ぎ捨てられていた。

「大ちゃん今日用事あるんでしょ？さっさと服着て」
「んんー」

名残惜しそうに枕に埋まる彼は可愛い犬のようで。
でも、その首に首輪をつけるつもりなど私には無いんだ。

だるいなぁ、身体が重いよ。

「ほら、コーヒー淹れてあげるから」
「マジで？やったねー」

もそもそと起き上がってとびっきりの欠伸。
横目に見てれば視線に気づいて、お得意のスマイル。
やってらんない。

無造作に脱ぎ捨てられたシャツを着て、
大ちゃんのためのコーヒーを淹れにキッチンへ。
ありがとー大好きだよー、とか背中に投げつけられる言葉。

「（大好きだよ）」

コーヒーを淹れて部屋に戻るとちゃんと着替えた大ちゃんが笑ってた。

「何時に出るの？」
「んー、これ飲んだら行く」
「そう」

ＡＭ　９：１１分

「大ちゃん」
「ん？」
「呼んだだけ」
「そか」

ＡＭ　９：１５分

「大ちゃん」
「ん」
「飲んだ？」
「うん。もう行くわ」

ありがと、と人懐っこい笑顔を向けて立ち上がる。
その笑顔が私にはとても眩しくて、恐ろしいものだと彼は知ってる

のかな。

玄関へと迷い無く進む彼を追いかけた。
するりと靴を履いて、大ちゃんはまた笑う。

「そんじゃ、いってきます」

がちゃりとドアノブが回り、ドアが開かれる。
やけに眩しく感じる光が大ちゃんを照らして、
あの眩しい笑顔が眩しい光に吸い込まれていく。

「大ちゃん」
「何？」
「・・・おはよう」

ふ、と驚いた大ちゃんだったけど、すぐに人懐っこい笑みを浮かべて
今度こそ大ちゃんは「いってきます」をした。

大ちゃんを見送った私が部屋へ戻れば
さっき大ちゃんが飲み干した筈のコーヒーは湯気を立てていた。

ＡＭ　９：２３分

（後書き）

ありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9337z/

目覚め

2011年12月29日03時49分発行